

JAきたみらい

あけひま サタタ

2017



vol.179

12



はいっポーズ!

《端野地区・豊実》

松崎繁さんと結愛ちゃん・未桜ちゃん・心温くん
(紹介は2ページです)

特集

平成29年産
農畜産物を振り返って



長いもまつり & 収穫感謝祭

季節の薫り



急に寒さが押し寄せてきた11月中旬、「長いもまつり&収穫祭」では各地域で収穫された野菜が一堂に並びました。

会場をマルキタ地方卸売市場に移して5回目の開催となり、今年も早朝から市民の行列ができるほど大好評となりました。

特売価格の長いものほか、玉ねぎ、馬鈴しょ、もち米、高級菜豆などの特産農産物や、JAのオリジナル商品、調理食品も人気が集まりました。

また、(株)マルキタの協力によりマグロの解体実演販売や海産物、畜産加工品も販売され、会場は入場制限を行うほどの賑わいを見せました。

(高田 陽介)

写真は11月19日、マルキタ地方市場内で撮影。約2千人のお客様がご来場しました。

もくじ CONTENTS

特集	平成29年産	農畜産物を振り返って……………4	
○表紙紹介……………	「自分の好きなものを頑張って」……………2		
○季節の薫り……………	……………2		
○地域の広場……………	……………12		
○ほのぼのの広場……………	……………14		
・きたみらいのホープさん	・なかよし夫婦	・プリーティーマン	・わが家のアイドル
○JAからのお知らせ……………	……………16		
○おひさまサラダクッキング……………	……………24		
「洋風ブリダイコン」	「ダイコン飯」		

表紙紹介

自分の好きなものを頑張って

雪がちらつき、すっかり冬の景色に変わった11月下旬、松崎家を訪れると、雪遊びをしていた二女の結愛(ゆな)ちゃん(7)と三女の未桜(みお)ちゃん(4)が笑顔で迎えてくれました。「こんにちは！」と声を掛けると、元氣よく挨拶してくれました。結愛ちゃんは明るく活発な小学一年生得意な授業は算数と体育で毎日楽しく学校に通っています。未桜ちゃんはちよつと照れ屋で運動が得意です。幼稚園に通っていて、今はお遊戯会に向けて桃太郎のおばあさん役の練習に励んでいます。

長男の心温(しんぬん)くんは乗り物が大好きです。お父さんにトラクターに乗せてもらったりうれしくなって大喜びしたり、仕事の様子を見るため、窓に張り付いたりしているそうです。

姉弟みんな仲が良く、心温くんはお姉ちゃんたちによく遊んでもらっていると話していました。

そんな子どもたちに、お父さんとお母さんは「元気で健康に、素直に育ってほしい」と。将来は、自分の好きなものを見つけてそれに向かい、頑張る子に成長してほしい」と話してくれました。

(菊池 光祐)



▲(左から)おじいちゃんの常雄さん(68)、二女の結愛ちゃん(7)、おばあちゃんの洋子さん(65)、長男の心温くん(1)、お父さんの繁さん(37)、三女の未桜ちゃん(4)
経営の概要：生乳生産750ト、秋小麦・デントコーン・牧草約666の作付け

平成29年産 農畜産物を振り返って

水稲 作況指数 105の豊作

播種作業は4月中旬より開始し最盛期は4月下旬となりました。育苗期間中に低温傾向だったものの苗立枯病の発生は少なく、平年並みに充実した苗質となりました。移植作業

は5月21日から開始し、移植終は好天に恵まれ3日程度早まりました。活着期も6月1日と3日早まり生育は進みましたが、6月の低温・寡照により生育は停滞しました。また、強風の影響により植傷みが見られ生育・分けつはやや遅れました。幼穂形成期は7月3日と概ね平年並みに経過し、前歴期間・冷害危険期間に

平成29年も残り20日余りとなりました。春の植付けは好天に恵まれ、収穫も順調に進んだ天候であったことと思います。
一年を振り返り、主要農畜産物について各生産組織の代表者より総括していただきました。

実需者と共に更なる消費拡大へ向けて

きたみらいもち米振興会
会長 沼崎 栄治



本年を振り返り、春の育苗期から耕起・移植作業等天候に恵まれ順調に進みましたが、6月の低温・寡照により生育が遅れが出ました。7月は開花期まで高温で経過し圃場格差も見られましたが平年並みまで回復したものの、8月上中旬にも低温・寡照となり、登熟の遅れにより作況も平年より下回る予想をしました。

しかしながら9月の好天により登熟が進み、9月25日から各地区一斉に刈り取りを開始し、10月11日に農作業事故等もなく無事終了しました。

その結果、きたみらいもち米慣行・特裁含め平均反収は568kg(9.5俵)、製品反収488kg(8.1俵)、製品歩留85.9%全量1等となり昨年並みの豊作となりました。会員皆様には安定供給に向け、日々の農作業管理にご努力いただき感謝申し上げます。

また、来年度から米の政策が変わり生産数量目標を産地が中心となって自主的に取り組んで行かなければなりません。今後ともオール北海道体制で、もち米を実需者と共に更なる消費拡大に向け、役員・JA・関係機関と取り組んでまいります。

冷涼な天候が続き生育進捗は遅れに転じましたが、不稔歩合は平年並みを確認することができました。
また、いもち病は全道的に発生が少なく、当地区においても発生予察に基づく適切な防除により抑えることができました。
収穫作業は適期収穫の見極めにより、9月25日から開始し、降雨による受け入れ中止は1日のみとなり、10月11日で終了し操業日数は16日間と例年と比べ大幅に短縮される結果となりました。
平成29年産の水稲は、管内作況指数105(前年108)の豊作となり、10¹⁷当たり568kg(昨年558kg)を確保できました。品質は、収穫間際の登熟が進んだことにより網下歩留まりが低下しました。粒形は不十分なものが散見されたため青未熟粒の割合は少ないものの色下歩留まりは高い結果となりましたが、製品歩留まりは近年で最も高い85.9%で調製を終えました。

JAきたみらい産もち米(きたゆきもち)

	10 ¹⁷ 当収量	等級	製品歩留	色下歩留	網下歩留
平成29年産	568kg	1等	85.9%	9.7%	4.4%
平成28年産	558kg	1等	85.7%	7.4%	6.9%
平成27年産	618kg	1等	84.5%	11.5%	4.0%
平成26年産	612kg	1等	83.7%	11.0%	5.3%



麦類 登熟期間短く 調製に苦慮

◆秋まき小麦

播種時期の悪天候により作業が遅延したことから、生育量が少なく越冬耐性が十分でない状況で推移しました。しかし、融雪期が平年よりも早かったことから、それに準じて起生期及び幼穂形成期は2日程度早まりました。5月の天候は順調に経過したことより止葉期が5日程度早まり、その後も若干の低温傾向ではあるものの、適度な降雨もあつたこと

から出穂揃いでも2日程度前倒しで経過しました。しかし、積算温度不足が日ごとに影響し、乳熟期で平年並みとなりました。7月上旬は順調に生育したものの、7月6日〜15日が高温で推移したことより成熟が急速に進み、結果として登熟期間は43日間(平年47日間)とかなり短くなりました。

また、病害では昨年に引き続き「コムギなまぐさ黒穂病」が発生しましたが、連作、極端な遅まきの回避等の耕種的な対策と併せて、出芽後の防除を行った圃場が多かったことにより、きたみらい管内における罹患面積は24¹⁷、一部廃耕面積は0.53

ととなり昨年に比べ被害が大幅に減少しました。

収穫は、前年より4日早い7月27日から始まり、曇天のなか圃場水分が下がらないなか8月8日で終了しました。

本年度の収量は、規格外込みで10¹⁷当たり平均582kg(前年669kg)、製品歩留まりは1等比率で85.1%(前年91.0%)となり、前年より大幅に下がる結果となりました。品質面では、急速に仕上がったことにより登熟不足が顕著に表れ、殆どの原料でタンパク値が高く、容積重が低い傾向となりましたが、品質分析により細かなブレンドを行ったことから、全てにおいて容積重・タンパク・灰分・FN(フォーリングナンバー)の基準値以内となり全量1等Aランクとなりました。

◆春まき小麦

播種作業、出芽ともに平年より若干早く推移し、出芽後も気温が高かったことから幼穂形成期は平年よりやや早まりました。その後は低温となりましたが、止葉期、出穂期は平年並みややや早く推移しましたが、登熟期間は39日間(平年43日間)と短くなりました。

また、目立つ病害虫の発生は少なかったものの、成熟前の早い段階か

ら倒伏する圃場が散見されました。

収穫は、前年より3日早い8月7日から始まり、降雨を回避しながら8月12日に受け入れを終了しました。収穫時期は曇天、降雨と悪天候であったことから後半の原料で若干の穂発芽が見られましたが品質に大きく影響するほどではなかったものの、秋小麦同様に登熟期間が短かったことから容積重が低い原料が散見され、調製に苦慮した年産となりました。

本年度の収量は、規格外込みで377kg(前年472kg)、製品歩留まりは81.3%(前年84.5%)と共に前年を大きく下回りました。

品質では前述したとおり容積重が低く、灰分が高い傾向となり歩留りを注視しつつ網目等を変えながら調整を行い、全てにおいて容積重・タンパク・灰分・FN(フォーリングナンバー)の許容値以内とすることができ全量Aランクとなりましたが、形質、歩留まり等を考慮し、等級につきましては1等及び2等となりました。また、毎年の懸念事項でありますタンパク値につきましては平均で12.8%(前年11.7%)と大幅に上がる結果となりました。



高収量・高品質 の生産に取り組む

きたみらい麦作振興会
会長 西野 繁



29年産を振り返ると、秋小麦は、昨秋の台風の影響で播種時期が遅れるとともに、早い時期の降雪により平年の半分ほどの生育で越冬しました。春先の融雪が早く、その後の生育は順調に推移しましたが、7月中旬の高温・降雨により全般的に細麦傾向となりました。また、「コムギなまぐさ黒穂病」は例年同様に全筆調査を行った結果、発生は昨年の1/10以下の24%まで減少し、罹患圃場につきましても発生率が軽微であったことから、抜き取りによる収穫対応とすることが出来ました。

春小麦は、融雪が早かったことから播種作業は例年より早く進み、その後の天候にも恵まれたことから順調に生育していましたが、7月中旬の高温と下旬の低温により、秋小麦同様に細麦傾向となりました。

大麦は本年が最後の作付となりましたが、良品のビール麦を収穫することが出来ました。

受入作業は秋・春小麦併せて7月27日から始まり8月12日までの操業でしたが、期間中は天候に恵まれず収穫作業は苦勞されたことと思います。

また、全品種において歩留まり・収量ともに昨年より低下しておりますが、天候の影響は大きいものの、耕種的な要因もあると思いますので、振興会会員一同並びに関係機関と連携を図り、次年度に向けては高収量・高品質の生産に取り組んでまいりたいと考えておりますので、関係各位のご協力をお願いするところでございます。

特集 平成29年産 農畜産物を振り返って



面積維持・拡大を基本に推進

きたみらい豆類振興会 会長 丸本 仁

春先の気候が良好で各播種作業も順調に進んだことから、豆類の播種作業も順調に進めることができました。しかし、6月の低温により生育が遅れが見え始めました。7月に入り若干は持ち直したものの、8月の開花期以降の低温・多雨による影響から全体的に小粒傾向になってしまいました。特に湿害に弱い高級菜豆につきましては収穫量に大きく影響する結果となりました。大豆・小豆につきましては大きな収穫量減にはならないまでも、一般的に小粒傾向となっております。

品質面で見てみますと大豆につきましては全体の4割程度で中粒原料が発生しておりますが、概ね2等原料での格付けとなっており、また好条件での収穫であったことから汚粒の発生が軽微となっております。小豆につきましては昨年の十勝地区の収穫量減少に伴い、過剰気味であった市場在庫が減少したこと引き合いの強い年産となりましたが、小粒傾向で形質が悪い状況となっております。

高級菜豆につきましても全体的に小粒傾向となっておりますが、秋の気候が順調に進んだことから品質は良好で例年より製品歩留が向上しております。

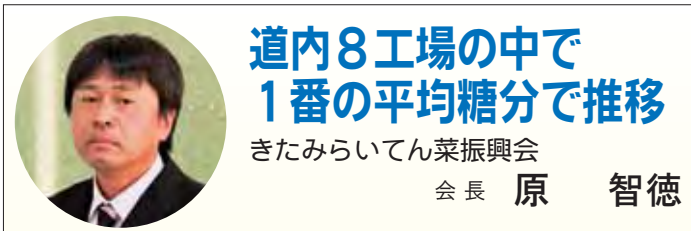
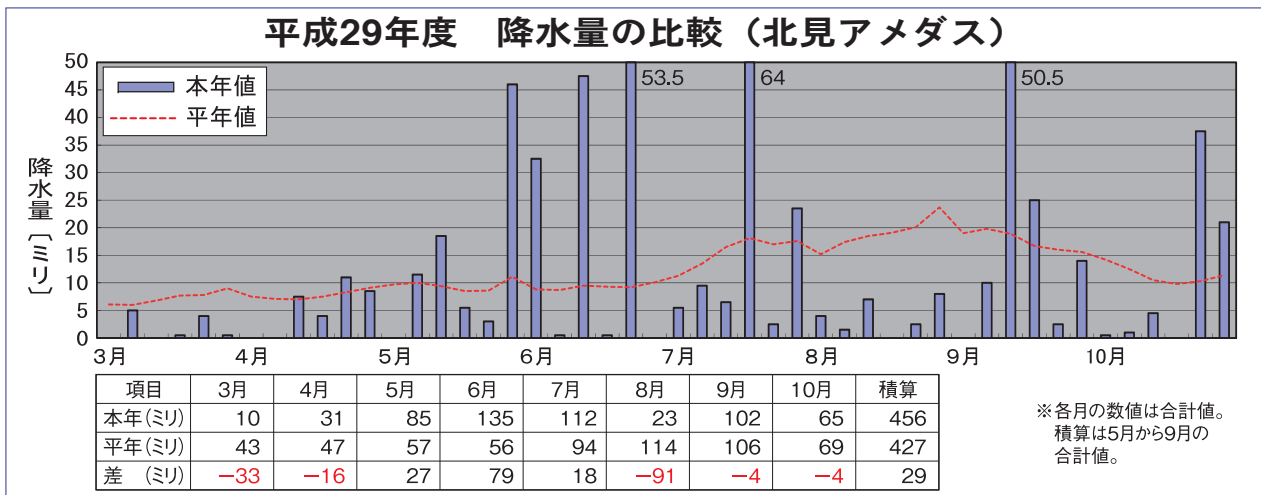
「きたみらい豆類振興会」としましては近年増加傾向である大豆を振興するとともに、小豆・高級菜豆の面積維持・拡大を基本に推進してまいりますので、みなさまのご協力を切にお願いするところでございます。

豆類 生育停滞し 小粒傾向
播種後は適度な降雨により初期生育は良好だったものの、6月の低温多雨、7月上旬の高温、8月の低温と豆類の生育条件としては厳しい環境となりました。作況で見ますと大豆の莢付きは年作に近かったものの、3粒莢も散見されるなど小粒傾向となっており、入庫した原料の4割程度のもものが「中粒」原料となっておりますが、圃場条件が良好のなかで収穫できたことにより、汚粒の発生は少なく品質

も良好なことから、9割以上が「2等」原料となっております。小豆につきましては莢付き、莢の長さは良好だったものの、積算温度が不足したことにより色の浅い年産となっており、併せて子実の充実不足により形質が悪く小粒傾向となっております。高級菜豆につきましては6月の天候により生育の停滞が顕著となり、湿害に弱いことと相まって莖葉の生育が乏しい圃場が散見されました。莢付きについては圃場差があるものの、概ね年産並みとなっておりますが、全般において粒張りが乏しく小粒傾向と見ています。



収穫量につきましては、圃場間格差があるものの大豆4・5俵、小豆4・6俵、虎豆5・0俵、大福3・8俵、白花豆3・3俵、紫花豆で3・6俵と大豆、小豆は年産を若干上回るものの、高級菜豆では年産を下回る見込みとなっております。



道内8工場の中で 1番の平均糖分で推移

きたみらいてん菜振興会 会長 原 智徳

昨年は一連の台風による大雨で甚大な被害を受け、生産者糖業共に厳しい秋でした。それにより生じた事象に対し、本年より工場構内貯蔵期間中の原料被覆のルールを決め、お願いすることになりました。

生産者の皆様にはご理解ご協力頂きありがとうございます。また本年より北糖構内に土壌病害虫の蔓延防止のためトラック洗浄施設が整備され順調に稼働しておりますことをご報告します。

現況、輸送完了者平均で収量52ト/畝、糖分17.6% (11月10日現在)と輸送計画段階よりやや下回る収量ですが糖分については道内8工場のなかで一番の平均糖分で推移しています。根腐等も殆ど無いきれいな原料で操業も概ね順調です。

しかし5月下旬から6月上旬の局地的な大雨とその後の低温多湿の影響をてき面に受けた地区ではこの数字と違う印象を持たれているかと思われます。

実際、予想収量より下回る地区もあり輸送終了の頃には平均収量51ト/畝まで下がる見込みがあります。平年作と言うには物足りない状況ではありますが、全道的には豊作基調で支援対象数量64万トを超えるケースも考えられます。

このような平均反収見込に関わらず輸送機関が長いのも本年の特徴で(10月16日開始、12月18日終了予定)、法令強化や公共事業増によるダンプ不足の影響を大きく受けており今後も懸念されます。

出来不出来に関わらず種蒔きから砂糖になるまで諸問題が絶えませんが糖業、農協、関係機関と連携しながら提案させて頂きますので今後もご理解ご協力頂きたくよろしく対応をお願いします。

てん菜 全道的に 豊作基調
4月の移植作業は平年並みに開始し、播種作業は平年より4日早く始まり、平年より1週間早く終了しました。定植後は風害や降雪の被害もなく概ね良好で生育は進みました。6月に入り低温多雨寡照で生育は緩慢となり、圃場は湿潤気味となりました。7月からは適度な降雨もあり、生育は回復し、8・9月は降水量が少なく干ばつ傾向となりました。平

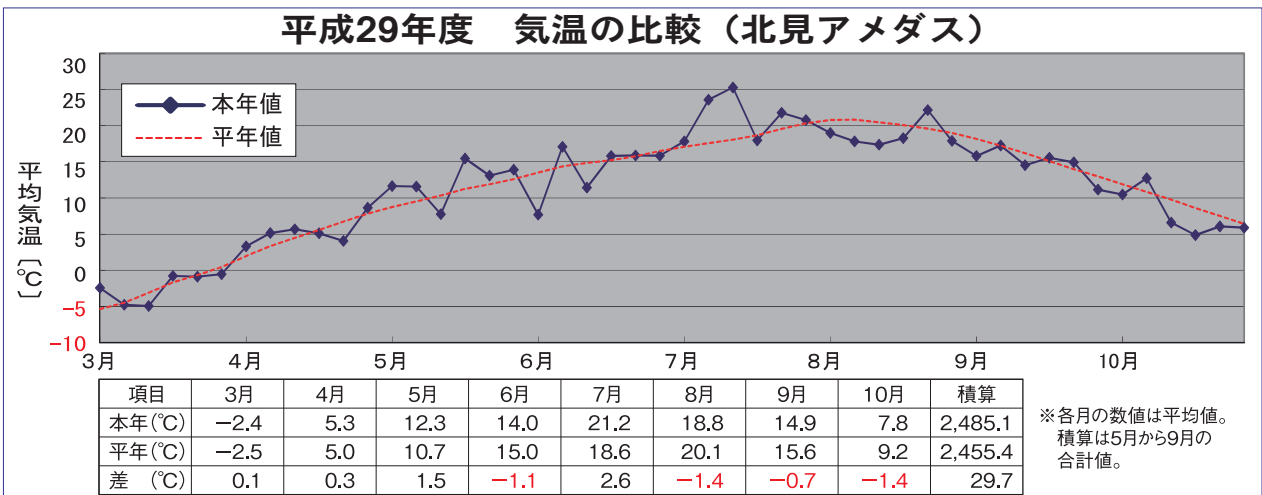
年に比べ気温が低いこともあり、褐斑病・根腐れ病・西部萎黄病の発生が少なく、莖葉および根部は健全な状態で特に糖分は高い傾向にありました。原料輸送は輸送業界の労働環境変化の影響を受け輸送トラックの減少があり、早期出荷原料から構内貯蔵を実施する運びとなりました。輸送は遅れの生じた地域との調整も行い、ほぼ予定通りに進んでいます。収穫について、前半は順調でしたが、後半の降雨・降雪は環境を悪化させ、収穫終盤では大変苦労する場面もありました。



生産実績見込みでは、概ね収量で52ト/畝、糖分で17.6%と、高糖分が期待でき作柄は好結果です。全道的にも豊作基調により支援対象数量64万トを若干超えることも想定されています。

JAきたみらい産 てん菜

	作付面積	畝収量	糖分	産糖量
平成29年産見込	3,768.49畝	52.30	17.6%	9,205ト
平成28年産実績	3,942.78畝	40.56	16.3%	6,592ト
平成27年産実績	3,844.72畝	60.24	17.5%	10,538ト



特集 平成29年産 農畜産物を振り返って



「安定品質」これが、きたみらいの馬鈴しょ

きたみらい馬鈴薯振興会 会長 佐藤 茂樹

本年の播種作業は、4月中旬より開始となりました。4月末には前進栽培や一般早出し用の植付けがほぼ終わり、その後の天候に恵まれたおかげで、一般栽培や加工用馬鈴しょとも5月20日頃には概ね終了となりました。6月上旬にはまとまった降雨もあり、初期生育は順調に経過しました。今年は昨年とは打って変わり、ゲリラ的な集中豪雨も少なく前進の収穫、そして昨年から始まっている一般栽培早出しなども順調に進みました。9月になって天気は安定していて、収穫作業は近年ではまれにみる進捗率だったように思います。

馬鈴しょの品質は、多少小ぶりではあるものの、玉数が多く平均10%当り収量が3,400kgと平年並〜やや良の出来でした。傾向として、緑化が近年のなかでは多く、今後の歩留まりが心配なところもあります。

全道的にも豊作傾向という事もあり、非常に厳しい環境にありますが、消費地との連携を取りながら貯蔵産地として、良品馬鈴しょの供給を進めていきたいと思えます。

今後とも「求められる産地」「生産者の作付意欲の向上」を今一度検証しながら、振興会として取り進めていきたいと思えますので、会員皆様のご理解とご協力をお願いするとともに、次年度も実り多い年になることをご祈念いたします。

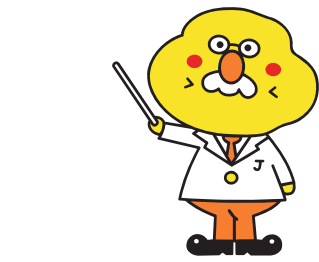
植付作業は、融雪が順調に進んだことで平年より数日早い開始となり、その後も好天に恵まれ総じて10日早く並で終了となりました。植付後の生育は例年より萌芽も早く、適度な降雨もあり初期生育は確保されましたが、6月に入り低温・日照不足・降雨の影響から、一時生育は停滞しました。6月後半以降は気温・降水量とも平年並みに推移し生育は回復し、圃場間格差はあるものの総じて順調に推移しました。馬鈴しょの収

馬鈴しょ 価格浮上を目指す

穫は、前進栽培で平年並みに開始され、順調に進み収穫時は好天に恵まれました。しかし、7月中旬以降の干ばつの影響により収穫キズや緑化の発生が例年よりやや多い状況ですが、正品質率は平年並となっています。道内の本年産馬鈴しょの作付面積は、28,424haとなり、前年に対し81.6%増加、近年続いていた減少傾向に歯止めがかかった状況となっていますが、依然加工品種にシフトし生食品種は減少をしています。収量面では、29年産全道馬鈴しょの生産動向は、平均10^ア当り収量3,580kg(前年3,310kg)の収量見込みとなっており、男しゃくに



いては全道平均3,370kg/10^ア(前年3,190kg/10^ア)、北見地区3,340kg/10^ア、倶知安地区3,220kg/10^ア、帯広地区3,790kg/10^アの見込みとなっています。販売環境は、生食向けについては前段の府県産が前年を上回る潤沢な出荷量となったことや、一般野菜の市況低迷等、各産地の出荷本格化を迎え市況は弱含みで推移しました。9月以降、北海道フェア等拡販により徐々に販売量は増加したものの、野菜全般の潤沢な出回りにより荷動きは引き続き鈍く厳しい販売環境が続く、週を追うごとに馬鈴しょの市場在庫も増加してきた状況から、産地段階での総量規制、更に10月末に



じゃがいも問題研究所 所長キャラクター 「いもろう所長」
【ホームページアドレス: www.Jagaimondai.jp】

は丸系馬鈴しょの出荷停止等、可能な限り環境整備に向けた取り組みを進め、価格の浮揚に努めています。加工向け馬鈴しょでは、チップ業界は計画を上回る原料を確保しており、増量企画や特売など製造量が増加しています。コロッケ業界は、市販用で順調に推移していますが業務用については低調な販売となっています。サラダ業界は、業務用で順調な販売となっていますが、惣菜用について売上回復にあるものの低調な販売となっています。今後の販売については、現況、出荷調整や台風・降雨の影響、消費地の気温低下に伴い荷動きは回復し、市況は緩やかに浮揚している状況にあります。今後の府県産馬鈴しょの生産出荷動向に注視し、良品出荷に向けた管理を行い、更なる価格浮揚を目指してまいります。

玉ねぎ 全道的に平年作を超える収量

全道面積では昨年が台風被害による流失・廃耕等があったため、前年比104%の12,858haとなりました。

本年は融雪が順調に進み、植付開始は平年より早い4月中旬から始まり、その後も好天が続いたことから、作業は順調に進み、植付終了は平年より10日程度早く終了しました。

植付後は干ばつ傾向でしたが、5月下旬以降は一変して低温で降水量が多く、一部圃場において水やけ症

状や抽苔が発生し、収量に影響を受けた圃場も散見されました。その後、7月中旬の高温や8月上旬の低温など、目まぐるしく天候が変化しましたが、総じて適雨適温で推移したことから、極早生から平年を上回る作柄となりました。

このようななかで10月20日現在の主産地の収量は岩見沢で平年を下回っていますが、オホーツク管内が平年を大きく上回る5,940kg/10^アとなったことから、全道平均では5,610kg/10^アと大豊作だった昨年には及ばないものの、三年連続で平年作を超える収量となりました。品質は収穫時期に好天に恵まれた



3年連続の豊作

きたみらい玉葱振興会 会長 土山 清隆

本年産は、6月の降水量が平年の2倍という多さから湿害が出た圃場が散見されましたが、反収は約6,000kgと3年連続の豊作となりました。また道内他産地も平年並みということで道内生産量は昨年を下回るものの70万tを超える豊作となっております。

一方、販売においては、8月、9月と苦戦が続きました。府県産の残量が思いのほかあったこと、それからここ数年府県産の不作から輸入量が増加し、8月になって加工や市場に出回り北海道の足を引っ張った形になりました。しかし、入庫の目途がたった9月末から諸対策を講じたことにより価格が上向いております。

また、今年は超遅出しの実験を行いました。通年出荷への要望にこたえるべく北見地区一丸となって行ったものであり、5月末に選果をして6月上旬の販売となりました。結果、概ね良好であり本年産も超遅出しに取り組むことになっております。通年出荷を行うには、かなり高いハードルを越えなければなりません。しかし、現在、北海道産がない5月から7月の輸入を抑えるためにも、そして府県産の作付減による生産量を補うためにも取り組んでいかなければならないと考えております。

最後に会員の皆様へ8月の早出しから6月の遅出しまでご協力頂きまして誠にありがとうございました。感謝を申し上げます。



ことから、汚れ玉が少なく、高品質な玉ねぎに仕上がっております。

本年も8月上旬より北海道産(極早生種)の販売が開始されましたが、府県産の収穫遅れによる後ズレや昨年の環境を想定したJAで誘導できない生産者の思惑在庫、さらに輸入品(ニューシーランド)在庫の存在、一般野菜の影響を受けるなどとして、昨年とは異なり厳しい環境のなかでスタートを切りました。

9月も厳しい販売環境が続いたことから、消費地の販売環境整備や市場在庫の軽減に向けて、輸出(台湾・韓国向け約8,000t)や出荷調整(10月上旬出荷止め)、消費地保管などといった全道諸対策を産地からの強いメッセージとして倉入れ前の時期に実施しました。諸対策の効果と台風21号・22号の影響による一般野菜の品薄高の追い



風と、11月に入り冷え込みが厳しさを増し、煮炊き商材である馬鈴しょ・玉ねぎの売場が大幅に拡大し価格も少しずつ浮揚し始めております。加工業務関係においても9月まで

に府県産の後ズレや輸入品の影響もあり、潤沢に原料が手配できる状況でしたが10月に入り国産原料が道産に切り替わり、ようやく吸い込みがよい状況になってきております。

輸入品については、中国産の値上げ並びにアメリカ産の不作傾向から前年を下回る入荷量を受けて、国産原料にシフトしているユーザーも一部ある状況です。

29年産の道産玉ねぎは平年を上回る取扱量となっていることから、販路拡大はもとより、消費地動向や一般野菜の荷動きを見据えながら価格浮揚に向けた取り組みを行っています。



和牛市場は 落ち着き傾向

きたみらい黒毛和牛振興会 会長 島尻 勝

今年の天候は、昨年ほどの気象災害には巻き込まれることはありませんでしたが、春先では雨も少なく干ばつ傾向でした。11月にはビートの収穫後に降雪があり、秋起こしに影響された方もおられると思いますが、全般的には概ね順調な年でありました。

素牛価格は今年度に入ってから徐々に値が落ち着きを取り戻し始めましたが、依然高値は維持を続けており、経済的には比較的安定した年だったと思います。

全国的に素牛の不足は、クラスター事業等により解消しつつあり、一層繁殖経営の発展を期するところではありますが、TPP11や日EU・EPA、さらには米国とのFTAの懸念と、海外需給の問題が本格化し始めており、政府の動向から目が離せない状況が続いています。

振興会としては、会員各位のさらなる発展を願い、子牛の適切な管理と優秀な種雄牛の交配、優良血統雌子牛の保留や導入を推進し、足腰の強い経営を目標に取り組んでまいりました。

次年度もみなさんが健康で笑顔になれる、実り多い年であろうことをご祈念致します。

初妊牛は規模拡大による生乳増産基調が継続しており、都府県・道内ともに引き合いが強く、昨年よりより一層高値での推移しています。この傾向は年明け以降も一定期間は続くと思われる、計画的に販売している酪農家の大きな収入源となっています。

廃用牛については、年度当初では高値で推移していましたが、徐々に値幅は落ち着いてきており小幅な動きになってくると予想されます。

乳用牛

導入意欲は継続 依然高値での取引

肉用牛

相場は落ち 着き傾向

繁殖和牛の動きは、春先より小幅に落ち着きを見せ、秋口から値を下げ現在では平成28年1月の水準で相場は推移しています。

枝肉相場では、ホル肥育は春先に一時値を戻しましたが、その後は回復せず輸入牛肉から若干下がり気味となりました。交雑種肥育では現状維持を続けていましたが、10月には値を崩し下降した状態です。



外圧に屈しない 経営基盤の強化

きたみらい酪農振興協議会 会長 溝井 雅幸

本年を振り返りますと、ここ数年の異常気象から、今年こそはと期待をしておりましたが、春先の低温・干ばつから7月には気温の乱高下、8月には多湿となかなか期待通りにならないなか、年末を迎える時期になりました。酪農の経営は粗飼料に大きく左右されるため、特に天候は大きく影響を受けます。

一番草では地域のバラつきはありますが、干ばつにより収量は減、二番草は逆に多湿となったため、収量はありましたが、刈遅れの地区も出て品質低下が心配されます。デントコーンはそれなりの出来ではなかったかと思えます。

生乳の生産は、生乳増産関連対策にて搾乳牛増頭や畜舎環境改善、そして草地の植生改善を図り、搾乳中止農家による減少もあるなか、概ね計画どおりの生産を保つことができました。継続してきた対策が実を結んできていると実感できました。

本年は、補給金単価が底上げされ、ようやく100円/kgの大台が現実のものとなりつつあるなか、その補給金の位置付けが畜安法へと移行され、乳価・個体販売では高値が続いていますが、先行きの不透明さが新たな不安を招いております。

今後においては、その不安を払拭できるよう生産基盤をさらに強化し、この先のTPPや日米FTAによる外圧に屈せぬよう、安定化に向けた取り組みを実施し、JA・各関係機関の連携の下、酪農の発展・振興に努めてまいりたいと思っております。

平成29年度の生乳生産目標数量は、昨年度設定された新たな生乳安定生産対策により、「生産者の意向」を目標数量としながらも、相次ぐ搾乳中止農家の影響は避けられず、前年対比99・8%で設定されました。

プール乳価では補給金単価とホクレン取引乳価引き上げとの合算で、前年と比較すると生乳1kg当たり概ね2円60銭の上積み試算がされました。

全国の生乳生産量は前年比累計で98・2%、全道でも11月末累計で99

・1%と前年を下回る状況で推移している状況です。JAきたみらいでは前年比累計99・3%と伸びを欠き、規模拡大があるなかでも搾乳中止者には依然歯止めがかからない状況が続いています。

飼養戸数では直近のデータで全国は3・5%の減少、北海道でも2・8%の割合で断続的に減少しております。飼養頭数では全国で1・9%、北海道は0・8%が減少していますが、一戸当たりの飼養頭数では増加傾向が続いております。

当地区の一番草収穫は干ばつ傾向の中始まり、春先地帯によって低温でしたが、その後は気候も回復し収穫作業も順調に推移しました。収量

生乳

乳量は伸び 悩み



では平年と比較し99%ほどの作柄でした。しかし、8月には台風の影響でところどころで収穫作業が中断されて地帯によってはそれが長引き、二番草の収量では平年との比較で102%でしたが、一部では刈り遅れも発生しました。

デントコーンでは10月に再度台風による影響を受け、収量でも干ばつ傾向であったため、平年と比較すると94%と減収になりました。粗飼料の品質低下は搾乳牛に大きく影響を与えるため、次年度の生乳生産が懸念されます。

JAでは昨年に続き生乳増産対策事業を継続実施しており、目標達成に向けての呼び水として展開させ、生産基盤の確立を目指して参りました。また、生産技術向上や経営指導の実施においても、各種情報を提供し搾乳中止農家の分まで生乳の増産を目指していくことを目標に取り組んでいます。

◇生乳生産実績 (29年4月～11月)

	目標数量 (ト)	28年度実績対比	29年4月～11月数量 (ト)	進捗率
全道	3,859,932	101.8%	2,530,208	65.6%
管内	571,370	102.3%	372,743	65.2%
きたみらい	87,627	99.8%	58,633	66.9%

◇衛生的乳質実績 (29年4月～10月)

	生菌数 (1.4万以下)		体細胞数 (30万以下)	
	前年増減	前年増減	前年増減	前年増減
全道	98.5%	0.0	98.4%	0.3
管内	98.1%	△0.3	98.0%	0.3
きたみらい	98.8%	0.0	97.8%	0.7



相内ジュニア4Hクラブは11月23日、収穫祭を実施しました。この活動は、栽培体験活動で収穫した野菜を使って料理をすることで、子どもたちが栽培・調理・食事をする機会の提供を通じて、食の大切さを学ぶことを目的としています。毎年行われており、19回目の開催となりますが、今年度をもって解散となるため、同組織の最後のイベントとなりました。

この日は総勢63人の参加者で、豚汁作りやもちつき、わたあめ作りを行いました。子どもたちは、保護者に手伝ってもらいながら、もちをついたり丸めたり、和やかな雰囲気の中で調理体験を行いました。

同クラブの会長である飯田紀さんは「今年度の集大成として盛大に開催できてよかった。このクラブでの活動を忘れず、いろいろな場面で活躍してほしい」と話してくれました。

同クラブは19年間の活動が終了となり、12月2日に行われる解散総会をもって終了となります。

(菊池 光祐)



▲交替でもちつきを行う子どもたち

西地域 相内 **収穫した野菜で豚汁づくり**

～相内ジュニア4Hクラブ～



▲千葉県・鴨川シーワールドにて

東地域 北見 **和気あいあいと交流を深める**

～女性部北見支部 道外視察研修～

女性部北見支部(米森美恵子支部長)は11月20日(月)から23日(木)までの3泊4日で道外視察研修を行い、部員12人が参加しました。

初日は千葉県の鴨川シーワールドでイルカやアザラシ等、愛嬌ある動物たちを見学しました。特にシャチのショーでは水しぶきが客席に届くほどの大迫力。興奮さめやらぬなか宿泊施設へと向かいました。

2日目はJA千葉みらいの農畜産物直売所「しよいか〜ご」習志野店に立ち寄り、地元野菜の販売を視察。午後からは大田市場に向かい、当JAを始めとした北海道産の玉ねぎや中国産の輸入玉ねぎなどについて実物を見ながら説明を受けました。

3日目、4日目についても視察や現地散策を通して部員同士の交流を深め、和気あいあいとしたなか帰路につきました。

(高田 陽介)



地 域 だ よ り



JAきたみらい青年部西支部留辺薬地区(今部直恒地区長)は11月15日、留辺薬小学校と瑞穂小学校の4年生を対象に、食育活動を行い部員5人が参加しました。

玉ねぎやじゃがいもをテーマに授業を行い、普段なかなか聞くことのできない生産者の声を届けました。また作業で使う育苗マットや玉ねぎの種子を実際に見てもらいました。子どもたちからは「じゃがいもは1年でどれくらい収穫できますか?」や「玉ねぎは収穫の時、どうして根を切るのですか?」という質問が出され、部員が一つひとつ丁寧に答えていました。

授業が終わった後は全校児童と一緒に給食を食べました。地元の玉ねぎ、人参、じゃがいも、牛肉を使ったカレーライス、白菜を使ったサラダに子どもたちは「おいしかった!」ととても好評でした。

今部地区長は「今回の食育を通じて、自分の住んでいる地域にはどのような作物があるのか知ってもらいたい。そして大人になったときに、地域の農業をPRしていったらいい」と話してくれました。

(菊池 光祐)

西地域 留辺薬 **地域の野菜を給食に**

～青年部西支部留辺薬地区～



▲児童と一緒に給食を食べる部員

南地域 訓子府 **介護保険制度を学習 相談員との意見交換会**

～女性部 訓子府支部研修会～



▲クリスマスモチーフのリースを作製する参加者のみなさん

女性部訓子府支部は11月20日、訓子府地区事務所にて支部研修会を開催し、部員51名、フレミズ4名が参加しました。

午前の部では、訓子府町役場の杉本保健師を講師に介護保険制度について学習し、万が一、家族に介護が必要になった場合の手続きや注意点などについて学びました。また、訓子府地区を担当するJA生活相談員より、普段の業務内容やJA全体の取組み状況を報告し、意見や質問の聞き取りをしました。参加者に対し、JA相談員は「相談を受け、すぐに介護サービスが必要な方を見つけた時には早急に役場に報告し、必要であればご家族に付き添って手続きを進めるなど細かなケアをしていきたい」と話しました。

午後の部には、フラワーアレンジメントを実施。講師指導のもと、1時間半ほどでクリスマスモチーフのリースが完成しました。

(石井 睦美)

きたみらいの
ホープさん



**収益率の高い酪農
経営を目指したい**

置戸地区・川南
川島 ^{てつや} 鉄矢さん(27歳)

- 趣味は？
高校から始めたテニスです。
- 好きな食べ物は？
焼肉、特に牛肉が大好きです。
- 好きな女性のタイプは？
優しく、いつもニコニコ笑顔の人。
- 農業で学びたいことは？
低コストで収益率の高い酪農経営を学びたい。
- 今後の抱負は？
地域の人たちと協力して、地元から農業を盛り上げたいです。

(北島 太)

鉄矢さんは酪農専業農家の清一さん、恵美さんの長男で就農して7年目になります。
JAや町の青年部に所属し、精力的に活動しています。

Pretty Woman
ウーマン



**「今日は楽しかったな」
と思える活動に！**

訓子府地区・北栄
小林 まゆみさん(54歳)

今回は女性部訓子府支部支部長の小林さんに登場いただきました。(石井 睦美)

◆ご出身、現在に至るまでは？

訓子府町出身です。高校卒業後、訓子府農協で勤めていました。夫とは青年団活動で親しくなり、20歳くらいの時に、一緒に発起人をしたことがきっかけでお付き合いすることになりました。3年の交際ののちに結婚し、2人の女の子に恵まれました。

◆ご自身の性格は？

性格は明るいと思います。楽しいことが大好きです。仕事も遊びもやる時はやる！という感じですね！

◆趣味は？

編み物です。5年くらい前から、洋服などの作品をつくるようになりました。ファーマーズマーケット「夢ミール」に参加しているので、収穫物があまりない時期にも販売できるものがあればいいなと思い、エコたわしも作っています。また、今年からエコープのもぎたて市にも参加していて、いろんな野菜づくりにも挑戦しています。

◆組織活動の魅力、今後の抱負は？

幅広い年齢のいろんな人に知り合えることが組織活動のいいところですね。集まって話せばストレス発散になるし、健康や介護などの勉強をしたり、ワイワイものづくりをしたり…。参加してくれた人が「今日は楽しい一日だったなあ」と感じてもらえるような活動をつくっていかねばと思います(^ ^)



置戸地区・豊住
みゆ
森脇 未侑ちゃん(8歳)
りん
凜ちゃん(4歳)

大きくなったら

獣医さんになりたい！ (未侑ちゃん)

犬が好きだから、獣医さんになってみたいです！

プリキュアの服を着たい！ (凜ちゃん)

プリキュアがかわいいから、緑のプリキュアの服を着たいです！

未侑ちゃん、凜ちゃんは森脇裕次郎さん、由記さんのお子さんです。

取材時にはピアノの演奏を聴かせてくれたり、たくさん一緒に遊んでくれました(^ ^)二人そろってお気に入りのぬいぐるみと一緒に写真を撮りました。

(石井 睦美)

Q お付き合いから、早70年

親戚同士で、幼なじみ。仲を取り持ってくれた方のおかげで昭和21年に結婚、早70年。浩子さん「嫌なことは上手に忘れることにして、あとは病気と仲良くすればいい」と微笑む。

Q 趣味は？

毎週火木土曜、隔週で月曜に夫婦でカラオケ通い。気心が知れた仲間とスナック「フレンド」で歌うのが二人共通の趣味。持ち歌は約120曲。新曲にも果敢にチャレンジしています。博さん「読書。蔵書は千冊あまり。特に伝記物が好きです」
浩子さん「声がかかれば、夏祭り、秋祭り、と、仲間と歌って踊るのも楽しみです」

Q お互いへの感謝の言葉は？

浩子さん「いつも車に乗せてもらって、ありがたい。これからも安全運転に心がけてください」

博さん「感謝の言葉」なんて、こそばくて、言ったことがない。今さら言うつもりもない。お互い空気みたいなもの。助け合う気持ちですね。「先に死ぬなよ」が口ぐせになっています」

人生の機微を乗り越えて、ほのぼのとした雰囲気のお二人が印象的でした。(本多 勝彦)



ながよし夫婦

▲自宅のカラオケ道場で腕を磨くお二人

**カラオケで、優雅に
#人生を謳歌♪する二人**

温根湯地区・昭栄

ひろし 博さん(91歳)
ひろ 浩子さん(90歳)

INFORMATION

准組合員について学ぶ(全4回シリーズ)

JAグループ北海道は、「道民と食と農でつながるサポーター550万人づくり」を通じて、JAグループに共感し、ともに行動して頂ける仲間づくりを進めています。国が進める「准組合員利用規制」の議論に待ったをかけるべく、組合員の皆で声を上げていきましょう。

【最終回】JAのサポーターとしての准組合員



生徒

JAグループ北海道が、「サポーター550万人づくり」を進めているって聞いたけど、どんな取り組みなのかな？僕らもサポーターになれるかな。

北海道で作られた農畜産物を食べることはもちろん、農業・農協・農村を応援したいという想いを持って、JAグループとともに行動する仲間を「サポーター」と位置づけているよ。平成28年12月にアンケートをしてみたら、北海道の農畜産物を優先的に食べて、農業を応援したいと考える人が、道内には400万人もいる計算で、准組合員数の28万人よりずっと多いんだ。



先生



生徒

道民のほとんどは食べるサポーターなんだ！僕もサポーターとして行動したいけど、JAは、地域でどんな協同活動に取り組んでいるの？

JAの広報誌やコミュニティ誌で、組合員の皆さんに紹介されている内容を例に挙げると、特色のある色んな取り組みをしていることがわかるよ。

- 地域協同活動(高齢者見守り、子ども食堂、移住者支援、街並み美化 等)
- 地域インフラ(移動購買車、移動金融車、高齢者支援 等)
- 地域食農教育(農業体験、出前授業、パケツ稲 等)
- 地域連携事業(地域祭り等の催事、行政・漁協・商工会・企業・大学連携 等)
- 情報発信(移住者・交流人口増加に向けた農と地域の魅力発信 等)



先生



生徒

JAは、地域に根差した色んな協同活動をしているんだね。僕も一緒に参加したいなあ。

JAは、地域に住む組合員ニーズに応えるのが役割だからね。「正・准組合員アンケート(平成29年11月以降実施予定)」などを使って皆の期待に応えることで、「これからもJAは地域に必要なだよ」と言ってもらえるよう頑張っていくよ。



先生



生徒

准組合員やJAの取り組みがよくわかったよ。僕もJAの協同活動に参加しながら、准組合員の利用規制に反対の声を上げて行くね。

JAグループ通信

JAグループの連合会・中央会の活動内容を紹介します。
JA北海道大会決議事項の実践やその時々のトピックスなど、組合員の皆様に定期的にお伝えします。
各団体の詳しい取り組み内容はWEBサイトをご覧ください。

JA北海道中央会



【北大との連携協定を締結】
JAグループ北海道と北海道大学は、食と農を中心とする幅広い分野の科学技術・学術及び産業の振興、教育の発展を目的とした包括連携協定を締結しました。
農業・農村を取り巻く様々な課題に対応するべく、北海道大学と共に、先端技術を活用した農業生産、道産農畜産物の価値創出、地域社会づくりや人材育成などの面で連携・協力関係を築きながら「力強い農業」と「豊かな魅力ある農村」の実現を目指します。



JA北海道信連



JAバンク北海道は、家族や周囲の人へ伝えたいことを書き残す「エンディングノート」のセミナーを初開催しました。(10月・札幌市)
行政書士の山根氏が相続・遺言の仕組み等を解説後「エンディングノートは遺言書を作る準備にもなる」とJAバンク版エンディングノート「いまから帳」の書き方を紹介し活用を呼びかけ、「大変参考になった」等、参加者にご好評いただきました。



ホクレン



北海道の味覚を一堂に集めた毎年恒例秋のイベント「2017第46回ホクレン大収穫祭」を札幌三越本館で開催しました。生産者の方の営農へのこだわりを消費者に知っていただくとともに、消費者の方がどんなことを生産者に望んでいるかを知りあう場として、交流イベント「食と農のふれあい広場」を開催。JA道青協、JA道女性協の役員の皆様のご協力もあり、どのイベントも大盛況でした。



JA共済連北海道



10月より、地域貢献活動の一環として組合員や地域住民の皆さまにJA共済のロゴ入り反射材付き帽子5万個を配布しています。夜間でも運転者が歩行者を視認しやすくすることを目的に全道JAを通じて順次配布し、交通事故未然防止と根絶を呼びかけます。
今後も組合員や地域住民の皆さまが安心・安全に暮らせるよう、地域貢献活動に取り組んでまいります。



JA北海道厚生連



組合員ならびに地域住民の皆様様の生命と健康を守るため、本会事業の積極的な啓蒙推進を図ることを目的として、「広報誌」すまいる」を発行しております。年3回発行しており、様々な医療・健康情報を発信しております。
ホームページにもバックナンバーを掲載しておりますので是非「」読んでください。



INFORMATION

青年女性ネットワーク

青年女性ネットワーク

1分間CMで最優秀賞 オホーツクJA青年部研修大会

オホーツクJA青年部協議会は11月9日、温根湯温泉ホテル大江本家で第46回オホーツクJA青年部研修大会を行いました。

「ステップアップ～新たなステージへ～」を大会テーマに掲げ14単組から約100人が参加。オホーツクJA青年の主張発表大会、基調講演のほか、農村ホームステイ受入実績発表、動画コンテストが行われました。

農村ホームステイ受入実績発表では、当青年部の藤森部長が発表し、農作業体験の様子を映像で流しました。佐藤教諭のインタビューについても動画をを用いた手法で報告を行いました。

1分間CM「動画で発信！農の魅力オホーツク地区コンテスト」においては、発表単組が6単組あるなか、当青年部が最優秀賞に選ばれました。

また、基調講演では、網走農業改良普及センター伊興田氏と浅田氏が「GAPをめぐる情勢と取り組むにあたってのメリットと課題について」と題したテーマで講演し、青年部員はこれからの情勢を真摯に受け止め、今後の営農において意識付けが必要と述べました。また、GAPについてグループディスカッションを行い、情報交換も行い、有意義な基調講演となりました。

懇親会では、「オホーツクアームレスリング大会」と「純農Boyオーディション」も行われ、部員間の交流も積極的に図られました。

- ①：新JA青年の歌の斉唱をする篠木・安斉監事
- ②：基調講演でのグループディスカッションの様子
- ③：農村ファームステイについて発表する藤森部長
- ④、⑤：ファームステイの事業内容



①



②



③



④



⑤



①



②



③



⑤

JAきたみらいフレッシュミズ「運動会」 白熱！大盛り上がりの交流会

JAきたみらいフレッシュミズは11月15日、上ところトレーニングセンターで会員交流研修会「運動会」を開催し、49名の会員が参加しました。この運動会は平成16年から毎年開かれ、今年で14回目。5つある支部の交流を目的として行われており、今年も支部混合の5チームに分かれ、団結して競技に挑みました。

開会式でフレッシュミズの松崎久美会長は「運動が苦手な方や妊娠している方でも楽しめるよう、役員で内容を考えました。この研修会を通して会員のみなさんが気軽に声をかけ合えるような仲間になればと思います」と挨拶しました。その後、フレッシュミズ役員の大橋加奈子監事、山川由美子理事が「農作業や家事の事は忘れ、女性らしく時には勇ましくプレーします」と選手宣誓しました。

参加者は大縄跳びなどの運動会の定番競技のほか、本部役員が考案した新競技など8種目に挑戦しました。最終種目の「作業着お着替えリレー」では、アンカーがゴールすると大きな歓声があがり、大盛り上がり！お互いのプレーに歓声や拍手が送られました。

運動会の終了後は上ところコミュニティプラザに会場を移し、懇親会が行われ、役員が考案したチーム対抗のゲームでさらに交流を深めました。



④

- ①開会挨拶を行う松崎会長
- ②選手宣誓を行う大橋監事と山川理事
- ③息を合わせて大縄跳び
- ④白熱した借り人競争
- ⑤リレーのアンカーに声援を送る参加者のみなさん

INFORMATION

第10回 理事会報告

11月27日、午後1時30分より第10回定例理事会が開催され、報告事項7件、決議事項4件が協議され、原案通り承認されました。

- 【報告事項】**
- ①内部監査（無通告（現金取扱部門））報告について
 - ②組合員状況報告について
 - ③財務状況報告及び決算見込について
 - ④反社会的勢力等の取引排除及び組織犯罪等の防止に係る対応状況について
 - ⑤疑わしい取引の届出状況について
 - ⑥H29年産共計玉ねぎ・馬鈴しょの選果販売状況について
 - ⑦2017長いも祭り収穫感謝祭実績について

- 【決議事項】**
- ①出資減口について
 - ②規程類の改正について
 - ③年末手当の支給について
 - ④平成30農業年度事業推進方針について

— お詫びと訂正 —

先月号（178号）のおひさまサラダで、誤りがありましたので次のとおり訂正し、深くお詫び申し上げます。P8（誤）英彦さん→（正）秀彦さん

組織間で悩みを話し合う 三組織合同意見交換会

JA青年部（藤森秀志部長）、女性部（北野はるみ部長）、フレミズ（松崎久美会長）は11月27日、センター事務所で三組織合同意見交換会を行い、計20人（青年部員7人、女性部員7人、フレミズ会員6人）が参加しました。

それぞれの組織が抱える悩みを話し合い、部員の勧誘や家族間のコミュニケーションなど多岐に渡り、意見を出し合いました。

懇親会に場所を移してから活発な意見交換が行われ、交流を深めました。



▲意見を出し合う三組織のみなさん

相談員だより ◆冬号◆ ◆第4号◆

◆簡単に楽しみながらできる脳トレ◆

寒くなってまいりました。空気も乾燥し、風邪やインフルエンザが流行する時期になりました。みなさま、十分お体に気を付けて、新しい年をお迎えください。

私共生活相談員は、75歳以上のご家族がいらっしゃる組合員様のお宅を訪問し、お話を聴かせていただき、最後にサインをお願いしておりますが、時々「しばらく字なんて書いてないから上手く書けるかな」との高齢者の声も聞かれます。

そこで文字を書く機会を増やすためにも「高齢者脳トレ」はいかがでしょう。パソコンで「高齢者脳トレ」で検索してみると、無料でダウンロードできる問題がたくさんあります。でもパソコンがない、プリンターがない、という方のためにお薦めなのが「部首ゲーム」です。「くさかんむり」「ごんべん」などのお題を決め、ひたすら書いていくゲームです。紙と鉛筆だけあればOK！お一人でもご家族とでも楽しめます。

鉛筆を握る、考えながら文字を書く、これだけでもかなり脳が活性化されます。施設などで取り組んでいる所もあります。時間内に何文字書けるか、10文字書くのに何分掛かるか、などルールを決めて、テーブルを囲んでご家族で挑戦してみてください。結構頭を使いますよ。



【お問い合わせ先】JAきたみらい 企画振興グループ 高齢者生活相談員（☎0157-32-8786）

新車 早期予約キャンペーン JAグループ X SUZUKI X SUBARU

平成30年 1月15日【月】受注分まで
登録期間は平成30年1月1日～3月31日まで

軽トラック 期間中、キャリイまたはサンパートラックを新車でご成約で付属品プレゼント！

軽バン 期間中、エブリイまたはサンパーバンを新車でご成約で付属品プレゼント！

乗用車 期間中、スズキの乗用車（新車）で成約で下記付属品A-Eの中から好みの1点を無料でプレゼント！

アルト ハスラー イグニス

付属品A: ナビゲーションシステム
付属品B: スマートキー
付属品C: 赤いカーペット
付属品D: 17インチアルミホイール
付属品E: 専用足踏

【お問合せ先】 JAきたみらい 燃料自動車グループ 生産資材拠点センター（☎0157-47-2099）

伝書鳩WEBサイト「オホーツク特選街」掲載中！

きたみらい給油所のお得なイベント情報などを掲載！
（下記URL・右側QRコードで公開。スマホからでもOK！）
<http://denschobato.com/tokusen/hokuren-ss-kmi/top.tks>

～続・今こそJA～ 【第3回】協同組合は儲けてはいけない？

協同組合は儲けてはいけないのではないかとこの声を聞くことがあります。旧農協法第8条にも「組合は～営利を目的としてその事業を行ってはならない」という条文がありました。ここで非営利の意味について考えてみましょう。

株式会社の目的はその利益を株主に配当すること



▲ロッヂデール記念館（ロッヂデール公正先駆者組合発足当時の店舗倉庫を改装したもの）

が目的であり、この利益を「営利」と呼んでいます。一方、協同組合は組合員に対する最大奉仕が目的であり、配当を目的とした活動はしていません。これが協同組合が「非営利」といわれるゆえんです。

しかし、実際に協同組合が事業を進めるにあたっては利益が出ます。赤字にならないよう安全を見越して手数料を若干高めに設定したり、肥料などの購買品を大量仕入れすることでコストを下げたり、販売物を有利に販売した場合等があるからです。

協同組合では、こうして結果的に出た利益を剰余金と呼んでおり、これを組合員の利用高に応じて戻す形をとっています。ロッヂデール原則の6番目にも「剰余は購買高に応じて組合員に分配する」という表現があります。こうした利益に対する考え方は協同組合がスタートした時点ですでに固まっていたと言っていいでしょう。

平成28年4月に農協法が改正され、それまでの非営利から「組合は～農業所得の増大に最大限の配慮をしなければならない」という表現に変わりました。協同組合が利益を出す＝儲けてはいけないということではありません。法律が変わっても組合員の利益に配慮することは協同組合の中に脈々と生き続けているのです。



洋風ブリダイコン

【作り方】

- ①ダイコンは厚さ1cmほどに切り、面取りし柔らかくなるまで下ゆでする。
- ②ブリの切り身は沸騰した湯で霜降りにし、水に落とす。
- ③鍋に煮汁の材料、下ゆでしたダイコン、霜降りにしたブリ、ショウガの皮を入れ、強火にかける。
- ④煮汁が1/3ほどになったらさいの目に切ったトマト、バジル、おろしショウガを入れ、器に盛り付け、こしょうを掛けて出来上がり。

【材料：2人分】

- ブリ切り身 ……2切れ
- ダイコン ……1/4本
- トマト ……1個
- バジル ……3枚
(なければパセリでも可)
- おろしショウガ ……小さじ1
- ショウガの皮 ……適宜
- こしょう ……適宜

煮汁

- かつおだし ……1と1/2カップ
- しょうゆ ……1/4カップ
- みりん ……1/4カップ
- 料理酒 ……1/4カップ
- 砂糖 ……大さじ2~3
(好みで)

メモ

煮汁の煮詰め加減、砂糖の分量は好みで。



ダイコン飯

【作り方】

- ①米をといで、ざるにあげておく。ダイコン・ニンジンはいの目に、ひじきは水に漬けて戻しておく。
- ②①の材料と合わせだしを炊飯器に入れ、炊き込みモードで炊き上げる。
- ③炊き上がったら蒸らしてかき混ぜ、器に盛り付ける。

【材料：3人分】

- 米 ……2合
- ダイコン ……10cmほど
- ニンジン ……1/4本
- 乾燥ひじき ……大さじ1

合わせだし

- かつおだし ……3/4カップ
- 薄口しょうゆ ……小さじ2
- みりん ……小さじ2
- 料理酒 ……小さじ2

メモ

炊き込みご飯を万能の合わせだしで、具材を変えている炊いてみましょう。

編集後記

- ・今年も残すところあとわずかとなり、何かと慌ただしさを感じる師走の時期を迎えました。
- ・JAからのお知らせでは青年部・女性部・フレミズ三組織の各活動を報告しています。気軽に参加できる活動もありますので、ぜひ皆様の加入をお待ちしております。
- ・晴れやかな新年を迎えられるよう、風邪やインフルエンザにかからないように体調管理にお気をつけください。

(高田 陽介)

JAきたみらい概要

(平成29年11月18日現在)

- ・組合員数(正) 1,699人
- ・組合員数(准) 6,297人
- ・組合員戸数(正) 1,046戸
- ・貯金 110,961百万円
- ・貸出金 12,940百万円
- ・出資金 4,973百万円

発行 きたみらい農業協同組合
 〒090-0813 北海道北見市中ノ島町1丁目1番8号
 TEL0157-32-8777(4)

責任者/西川孝範

編集者/営農振興部:企画振興グループ